

茨城で一括定額運賃の導入が広がる 水戸に続く結城は高齢者タクシー



少子高齢化の急速な進行で、日本は本格的な人口減少社会の時代に突入している。人口減少により、地方から地域経済が疲弊、中小都市では、いわゆるシャッター商店街の光景も一般化。地方都市では百貨店の撤退も相次いでおり、中心市街地の活気は失われ、地方鉄道の廃線、民間主体のバス路線網の廃止・縮小から、交通空白地・交通不便地域も急拡大している、というのが、いまの地方の実情だ。

バス路線が廃止・縮小した地域では、住民の生活の足や自家用車に頼れない高齢者の移動手段を確保する目的で、地方自治体が主体となつて乗合タクシーやタクシー事業者が運行を受託する乗合型オンデマンド交通の導入が進んでいるが、一方で、導入・運行コストや利便性などから課題を指摘する声もある。

そこで新たな選択肢として、茨城県において導入が拡がりつつあるのが、タクシー需要が減る閑散時間帯を対象に地方自治体による一括定額運賃を活用した一般タクシーの借上げ運行だ。水戸市では、「水都タクシー（すいとタクシー）」の愛称で、水戸市周辺部の交通空白地を対象に一括定額運賃（水戸市の場合は、1時間6100円の時間制運賃を5割引）を活用した水戸市による借上げタクシーを運行。運行時間帯を、タクシー需要が減って閑散時間帯となる午前10時から午後4時までに限定、目的地を制限することで、一般タクシーとの棲み分けを図り、運行を受託するタクシー事業者にとつては地域への貢献に加え、需要閑散時間帯における安定した収入源ともなっている。利用者は、乗車1回につき1000円（目的地が地区内、交通結節点などの場合は1回500円）を支払うことで、地方自治体、利用者、タクシー事業者が、持続可能な地域の移動手段の確保策として運行負担を応分する取り組みだ。また、新たなシステム投資なども不要で、既存のタクシー配車の仕組みのままで運行できるのもメリットだ。

茨城県内では、水戸市に続き、結城市でも市内に居住する65歳以上の高齢者の移動手段として一括定額運賃を活用した「高齢者タクシー」の実証運行を昨秋から開始。そこで本紙の熊澤義一編集長は4月14日、茨城県の結城市役所を訪れ、地元の高齢者や「高齢者タクシー」の運行を受託している城南タクシーと結城合同タクシーの担当者、結城市役所で「高齢者タクシー」を担当する保健福祉部介護福祉課から、一括定額運賃を活用した「高齢者タクシー」の現状とメリット、導入の経緯などを聞いた。

水戸市で需要閑散時間帯割引

少子高齢化による人口減少が進む地方を中心に地域経済が疲弊、バス路線の廃止や縮小が相次いでいる状況だ。そうした中で、高齢化の急速な進行で、自家用車に頼ることのできなくなった高齢者の移動手段をどう確保していくかも、地方自治体にとって大きな課題となっている。

廃止・縮小されたバス路線の補完や高齢者の足の確保策として、地方の交通空白地や交通不便地域を中心に、地方自治体が主体となって乗合タクシーやタクシー事業者が運行を受託する乗合型オンデマンド交通の導入が進んでいるが、一方で、導入・運行コストや利便性などから課題を指摘する声もある。

そこで、茨城県の県庁所在地である水戸市（人口は約26万9000人）では、国土交通省が「タクシーは、ドア・ツー・ドアの移動を可能とする特性から、高齢者等にとって利便性の高い交通機関であるものの、買い物時や通院時等の近距離の移動については、他の交通機関に比して割高感があるために利用を控えている場合もある。特に地方部においては、昼間の需要閑散時間帯等にこうした潜在的なニーズを捉えるべく、割引の実施を検討すべき」などとして2015（平成27）年に打ち出した、

タクシーの需要閑散時間帯割引を活用して実証実験を実施。

水戸市では、交通空白地対策について「民間の交通事業者であるバスやタクシーの活用を最優先に考える」としながらも、一方で「過度な行政負担を前提としない、持続可能な移動手段を実現する」として、タクシーの需要閑散時間帯割引（タクシー需要が比較的少ない昼間時間帯において、地方自治体とタクシー事業者が通常運賃の半額による時間制運賃の運送契約を締結する）を、市周辺部の交通空白地対策の実証実験として導入。茨城県地区における1時間6100円（現行運賃）のタクシー時間制運賃を5割引として、月曜日から土曜日（日曜日と祝日などは運休）の午前10時から午後4時までの需要閑散時間帯6時間をタクシー1台1万8300円で水戸市が借り上げて運行する仕組みだ。

運行時間帯を、タクシー需要が減って閑散時間帯となる午前10時から午後4時までに限定、目的地を制限することで、一般タクシーとの棲み分けを図り、運行を受託するタクシー事業者にとっては地域への貢献に加え、需要閑散時間帯における安定した収入源ともなっている。利用者は、乗車1回につき1000円を支払うことで、地方自治体、利用者、タクシー事業者が、持続可能な地域の移動手段の確保策として運行負担を応

分する取り組みだ。また、新たなシステム投資なども不要で、既存のタクシー配車の仕組みのままで運行できるのもメリットだ。利用が増えるほど、自治体の負担は減る。

この仕組みが2021（令和3）年度から、需要閑散時間帯割引に代わり、一括定額運賃として、同様のスキームで引き継がれることになった。

一括定額運賃で交通空白地対策

一括定額運賃は、「Maas」にも資する新たな運賃・料金サービス」として、国土交通省が2020（令和2）年11月に、変動運賃料金とともに導入した新制度で、「タクシーの複数回の利用分の運賃を一括して支払うことで、一括清算により割安になることが期待」というものだ。

交通空白地対策でのタクシーの借上げ運行に一括定額運賃を導入した水戸市では、現在は、実証実験を経て本格運行に移行、水戸市周辺部の交通空白地11地区を再編した8地区に、水戸市が月曜日から土曜日（日曜日と祝日などは運休）の午前10時から午後4時までの需要閑散時間帯において借上げ運行（6時間で1台1万8300円）するタクシー1台ずつを配置している。

指定目的地として、駅や路線バス営業所などの交通結節点、日常生活

圏域（地区内と地区外）、日常生活圏域外の医療機関等に分類して、乗車1回1000円、または1回5000円の運賃を設定している。

利用者は、乗車1回につき1000円（地区内での移動、目的地が駅やバス営業所などの交通結節点の場合は1回500円）を支払う仕組みだが、さらなる利用促進のため、乗車時間帯が昼12時から午後2時までの場合は、昼間料金として目的地が指定された日常生活圏域内に限り、交通結節点でなくても1回500円に引き下げている。また、「水都タクシー（すいっとタクシー）」の愛称も公募で決めた。

【水戸市（水戸市）】
国田地区（水戸市）
（水戸市）
（水戸市）

日中におでかけの際は、
すいっと
水都タクシー
が
とっても お得 です。

（お住まいの地区から乗降する場合は）
片道 **500円** または **1,000円**
※ 片道500円は、乗降する地区が同一の場合です。

運行内容
【利用対象】 対象となる地区にお住まいの方
【運行時間】 月曜日から土曜日（日曜日、祝日、年末年始は運休）
【利用時間】 午前10時から午後4時まで
【利用料金】 お住まいの地区から乗降する場合は片道500円、異なる地区の場合は1,000円です。

予約方法
☎0120-53-1164（水戸市観光協会）に電話してください。
※ 予約は前日午後5時までに、予約受付時間外は、予約受付時間外に電話してください。
※ 必ず「水都タクシー」の愛称を明記してください。

予約する場所や料金など、詳細はこちら

水戸市では、交通空白地対策としての一括定額運賃によるタクシーの借上げ運行に2900万円（令和3年度）の予算を計上し、市の財政負担額に対して利用者負担率が3割となることを継続基準とし、3年ごとに利用動向をチェックする。

「水都タクシー（すいっとタクシー）」は、地方自治体、利用者、タクシー事業者が、持続可能な地域の

移動手段の確保策として運行負担を
 応分する取り組みであり、また、新
 たなシステム投資なども不要で、既
 存のタクシー配車の仕組みのまま
 運行できるのもメリットとなってい
 る。利用が増えればその分、自治体
 の負担も減ることになる。

茨城県内では、水戸市に続き、結城市でも市内に居住する65歳以上の高齢者の移動手段として一括定額運賃を活用した乗車1回1000円の「高齢者タクシー」の実証運行を昨年9月から開始した。当初は今年2月28日までの実証運行だったが、さらに8月31日まで延長。9月1日以降の本格運行を目指している状況だ。

[illegible]

茨城県結城市は、県西部に位置し、伝統産業として全国的に有名な絹織物の結城紬（国の重要無形文化財）で知られている歴史ある街だ。結城紬は、2010年にユネスコの世界無形文化遺産に登録されている。また、関東でも有数の古い城下町で、

市内北部には寺社も多く存在する。結城市の人口は4万9665人（5月1日現在）だが、1995（平成7）年には5万3777人いたことから、少子高齢化による人口減少が深刻な状況だ。また、結城市における65歳以上の高齢化率は31・6%となっている。

市の面積は65・76平方キロメートルと、それほど広くないものの、南北に長く、市内の公共交通はJRの支線で水戸（笠間市の友部駅で常磐線から分岐）と栃木県の小山を結ぶ水戸線が走っており、市内には結城駅など3駅があるが、結城駅以外は無人駅。結城駅の2019（令和元）年1日当たり乗車人員は2041人（うち約1500人が通勤通学の定期利用）となっており、高校生の通学や経済的な結び付きの強い栃木県小山市（人口は16万6000人）などへの通勤利用が多いようだ。

結城市内の公共交通は貧弱で、市内には、城南タクシー（9台）と結城合同タクシー（12台）のタクシー2社が営業しているものの、結城駅を中心とした市内中心部からは民間路線バスが撤退、市内の路線バスは唯一、市南部の工業団地と古河市にあるJR東北本線（宇都宮線）古河駅を結ぶ茨城急行自動車の路線が平日は朝夕の2本、土日3本のみを運行しているという状況だ。

このため、結城市では、市の財政

負担による無料の市内巡回バスを導入しており、現在は3台体制で、市街地循環3ルートと市街地と郊外を結ぶ4ルートの計7ルートを運行している。乗車は無料だが、運行は、月曜日から土曜日までで、日曜日と祝日、お盆と年末年始は運休。運行時間も、例えば、結城駅を起点に結城市役所などを経由して巡回する北部西ルートは、結城駅北口を朝8時15分に出発する1便から、夕方4時43分に結城駅北口に到着する6便まで、運行本数は1日6本だ。2020（令和2）年9月まではシルバー人材センターからの派遣運転手による運行だったが、同10月からは城南タクシーが運行を受託している。

一括定額運賃が決め手に

結城市では、現在の小林栄市長が2019（令和元）年8月に行われた市長選挙の公約に「交通手段のない高齢者等を支える新型制度の構築」を掲げて当選したことから、公約具体化の検討に着手。

水戸市で導入されていた一括定額運賃によるタクシーの借上げ運賃を参考に、市内に住む65歳以上の高齢者を対象とした「高齢者タクシー」の運行を、昨年9月1日からスタートすることになった。

結城市で「高齢者タクシー」を担当している、市保健福祉部介護福祉

課の平井幹了
課長補佐は
「自宅からバ
ス停まで行け
ない、市内巡
回バスを利用
できない高齢
者の移動手段
を確保するた
め、高齢者の
ニーズに対応
した移動手段
の提供が必要
だったが、デ
マンド交通
は、コストに
対する利便性
の問題から、
結城市では
導入しない方
針だった」と
しながら、「二
括定額運賃に
よるタクシー
の借上げ運
行は、デマン
ド交通と比べ
ると自治体の
負担が少なく
、高齢者タク
シーを導入す
ることは難し
かったのでは
ないか」など
とする見方を
示した。



時間制運賃5割引で市が借上げ

結城市で昨年9月1日から運行を開始した「高齢者タクシー」は、交通空白地対策を目的とした水戸市の「水都タクシー（すいとタクシー）」とは異なり、市内における高齢者の移動手段の確保が目的だが、運行の仕組み自体は似通っており、過度な



行政負担を前提としない、持続可能な高齢者の移動手段を実現するため、結城市内のタクシードライバー2社（城南タクシーと結城合同タクシー）との間で一括定額運賃（タクシー需要が比較的に少ない閑散時間帯において、結城市とタクシードライバー2社が通常運賃の半額による時間制運賃の運送契約を、期間を定めて締結して一括清算）を導入。茨城県地区における1時間6100円のタクシードライバー時間制運賃を5割引として、月曜日から土曜日（日曜日と祝日などは運休）の午前9時から午後3時までの閑散時間帯6時間を、タクシードライバー1台1万8300円で2社から各1台ずつ結城市が借り上げて運行する仕組みだ。

運行時間帯を、タクシー需要が減って閑散時間帯となる午前9時から午後3時までに限定、指定目的の地を医療機関や公共施設、商業施設、金融機関、鉄道駅、福祉施設などの高齢者の日常生活に必要な不可欠な施設などに制限することで、一般タクシーとの棲み分けを図り、運行を受託するタクシードライバー事業者にとっては地域への貢献に加え、閑散時間帯における安定した収入源ともなっている。利用者は、乗車1回につき1000円を支払うことで、水戸市と同様に、地方自治体、利用者、タクシードライバー事業者が、持続可能な高齢者の移動手段の確保策として運行負担を応分する取り組みだ。また、新たなシステム投資なども不要で、既存のタクシードライバー配車の仕組みのまま運行できるのもメリットだ。利用が増えればその分、自治体の負担も減る。

運転免許返納後の移動手段に

本紙の熊澤義一編集長は4月14日、茨城県の結城市役所を訪れ、地元の高齢者や「高齢者タクシー」の運行を受託している城南タクシーと結城

合同タクシーの担当者、結城市役所で「高齢者タクシー」を担当する保健福祉部介護福祉課から、一括定額運賃を活用した「高齢者タクシー」の現状とメリット、導入の経緯などを聞いた。

最初に話を聞いたのは、「高齢者タクシー」の利用対象となる、結城市内に居住する宮田さん、安達さん、青木さんの高齢女性3人で、年齢は87歳が2人と79歳だ。

3人からは、「高齢者タクシー」という名称は、高齢者が使うタクシーということだろうが、もう少し分かり易い名称を考えて欲しい。結城市には、結城紬もある」との声や、「行き先（指定目的地）に、美容院やゲーミングボール場なども含めて高齢者の日常生活に密着した施設をもっと増やして、利用しやすくして欲しい」、「運行時間をもう少し長くして欲しい」、「朝9時〜午後3時というのは短い、出来れば夕方5時ごろまで運行して欲しい」、「結城市が無料運行している市内巡回バスなどと連携して欲しい。例えば、高齢者タクシーで自宅から病院まで移動し、病院で市内巡回バスに乗り継いで、さらに他の目的地に移動するなど、今は連携が無いので、自宅から限られた指定目的の地まで移動した後は、歩くしかない。歩けるような丈夫な高齢者でない」と利用できない」などとする要望も出た。

一方で、結城市が導入した「高齢者タクシー」の運行そのものには好意的で、「会員登録が必要なく、会員カードのようなものがないのは便利」、「運転免許返納後のことを考えると、ありがたい」などとした。

1回千円で利用できるタクシー

また、城南タクシーで「高齢者タクシー」の運行を担当する女性乗務員の佐藤さんは、「通常のタクシー乗務に加えてシフトを組んで『高齢者タクシー』を担当しているが、多い日だと1日8〜9人、最多で10〜11人ぐらいお乗せしており、『高齢者タクシー』がスタートした昨秋よりも利用は増えている。最初は、利用が少なく、『高齢者タクシー』の利用方法などにも戸惑っていたが、最近では多くの高齢者の方に通院などで利用してもらっている」としたほか、「病院までが遠いお年寄りにとって、毎日使うにはタクシー運賃は高いので、お乗せするたびに『とてもありがたい』と感謝の言葉をいただくなど、1000円で利用できる『高齢者タクシー』は喜ばれている」など感想を述べた。

トータルではやって良かった

結城市内にあるタクシードライバー2社で、「高齢者タクシー」の運行を受託して

いる、城南タクシー（9台）の宮田さんと結城合同タクシー（12台）の永井さんは、一括定額運賃で時間制運賃によるタクシー借上げが半額の1時間3050円になることについて、「通常営業での売上には波があるので、一括定額運賃で『高齢者タクシー』を運行する午前9時から午後3時という時間帯は、ちょうどよいのではないか」とする見方を示しながら、「夕方になると工業団地から帰るお客様がいるので、『高齢者タクシー』の運行時間を延ばすと配車が間に合わなくなる。タクシー会社が暇な時間での運行というのが始まりで、そういった趣旨で市役所からお話をいただいたので、それならこちらもありがたい、という考えで、午前9時〜午後3時までの運行時間も、私たちタクシー事業者と市役所で相談、調整して決めたもの。『高齢者タクシー』は、通院での利用が多く、病院は朝9時からの受付が多いので、それに合わせる形で運行時間を9時からにした」などと説明した。

課題としては、「高齢者が、なかなか家などから出て来ない場合の待ち料金の扱い」、「休診日に病院に行ってしまったようなケース」、「病院の受付が始まる朝9時に配車注文が重なる問題」などを挙げたほか、「1000円でのタクシー利用に慣れてしまい、通常のタクシー運賃が高く感じられるようにならないで困る。市の負担があつての1000円で乗れる『高齢者タクシー』であり、1000円で運行するからには、ある程度の縛り（指定目的地の限定や運行時間の制限）は必要」と指摘した。

その上で、人口5万人弱の地方都市でタクシー事業に携わる立場から「高齢者にとって自家用車を手放すメリットが大きければ良いが、結城市の現状は、まだそこには達していない。運転免許を返納しても高齢者が気兼ねなく外出できる仕組み作りが重要」などとする考えも示した。

目標値に近い利用率に

結城市で「高齢者タクシー」を担当している、保健福祉部介護福祉課の平井幹了課長補佐は、「私が子供のころには民間路線バスが走っていたが、現在は結城市内中心部から民間路線バスは撤退してしまっており、結城市独自の無料の市内巡回バスが7ルートで運行（日曜日と祝日、お盆と年末年始は運休）している状況

だ」としながら、「結城市は市北部に市街地が集中する一方で南部は農村地区で住居が点在しており、このため市南部に市内巡回バスの路線を設定してもバス停が遠いケースも多く、高齢者の移動手段確保が課題だった。そうしたことも市内全域をカバーする『高齢者タクシー』運行のきっかけのひとつ」などと説明。

その上で、「自宅からバス停まで歩けない、市内巡回バスを利用できない高齢者の移動手段を確保するため、高齢者のニーズに対応した移動手段の提供が必要だったが、デマンド交通は、コストに対する利便性の問題から、結城市では導入しない方針だった。一括定額運賃によるタクシーの借上げ運行は、デマンド交通と比べると自治体の負担が少なく、一括定額運賃の制度が無ければ、高齢者タクシーを導入することは難しかったのではないか」などとする見方を示した。

平井課長補佐は、「高齢者タクシー」の現状について、「市の負担に対して



3割の利用者負担という、当初設定した目標値に近い利用率であり、3月の段階で約28%まで来ている。もう少しで3割を超えて来る可能性も出て来た。利用の8割弱が病院への通院利用であり、あとは商業施設への買い物利用が中心」としながら、「『高齢者タクシー』の運行を委託している市内2社のタクシー事業者さんも協力的で、頑張ってくれている。成功と言えるのではないか」として、「この制度があれば、自治体としては（コストに対して利便性の低い）デマンド交通をやる意味も無くなってくるのではないか。水戸市の取り組みを紹介してもらったことがきっかけだが、市の財政負担が抑えられる一括定額運賃による運行でなければ『高齢者タクシー』の導入は難しかったかもしれない。市の面積が小さい一方で農村地区が広い結城市には適していた」などと説明した。

一括定額運賃に注目が集まる

一括定額運賃による高齢者の移動手段確保策としての「高齢者タクシー」に対する注目度は高く、茨城県猿島郡五霞町でも、町内にタクシー会社は無いものの、隣接自治体のタクシー会社と連携することでの導入を検討する動きが出ているほか、結城市にも全国の約10カ所の自治体から問い合わせがあるような状況だ。

【参考】既存タクシーを活用した運用方法の比較

		デマンド型乗合タクシー	定額タクシー（事業2）	タクシー券配布
運用概要		事前登録した利用者が、事前予約の上、低額で自宅等と定められた目的地間を輸送	タクシーの閑散時間帯に、通常運賃よりも安価な時間制運賃で輸送	事前にタクシー券の交付を受け、タクシー料金の一部として支払い時に利用
対象者		市内居住者	高齢者等	高齢者、障害者
メリット・デメリット	運行手続き	△ 乗合事業の許可申請が必要	◎ 現在の一般乗用旅客自動車運送事業で対応可能	◎ 現在の一般乗用旅客自動車運送事業で対応可能
	利用時間	△ 一般的に8～17時が多い	△ 10～16時の閑散時間帯	◎ いつでも可
	利用方法	△ ・登録の手間がかかる ・予約が必要 ・予約状況により利用できないこともある	◎ ・通常のタクシーの送迎依頼と変わらない ・予約も可能	◎ 予約、事前連絡の手間がない
	乗降場所	○ 自宅及び指定場所	○ 自宅及び指定場所	◎ 市内どこでも乗降可能
	運賃負担	◎ 低額で利用できる（一般的に500円程度）	○ 利用距離が長くても、定額で利用できる	△ 利用距離が長いほど、利用負担が大きくなる
	利用制限	◎ 利用回数に制限がない	◎ 利用回数に制限がない	△ 利用回数に制限がある
	車両	◎ 現在の車両で対応可能	◎ 現在の車両で対応可能	◎ 現在の車両で対応可能
	費用	△ ・予約システム導入費、運用コストがかかる	◎ 新たな予約システム導入費・運用コストがかからない	○ ・新たな予約システム導入費・運用コストがかからない ・タクシー券の発行管理に関するコストがかかる
	運用面	△ ・運賃が低額な分、市の財政負担が過大になる ・車両台数に限りがある	○ ・閑散時間帯の空き車両の活用につながる ・車両台数に限りがある	△ タクシー券の精算手続きに係る事務的負担が大きい

一括定額運賃（1,000 円タクシー）をご検討ください！

地方における公共交通としての のタクシーの役割について

自治体との協働による閑散時間帯に特化した取組み

「一括定額運賃」制度化
における運行



一般社団法人 茨城県ハイヤー・タクシー協会

<https://www.youtube.com/watch?v=wer4jRp60is&t=1s>

水戸市は、令和3年4月より一括定額運賃による 1,000 円タクシーの運行を開始しました。

現在では 1000 円タクシーから水都タクシーの愛称に変更し、順調に運行しています。

この制度は他の自治体でも導入が可能です。これまでの自治体による地域公共交通会議におけるタクシーの役割といえばデマンド交通とタクシー券が主流でしたが、そこへ新たな選択肢として一括定額運賃（1,000 円タクシー）の制度が加わっていることがあまり周知されていません。結城市ではこの制度を65歳以上に限定して導入され、市民に好評であるといえます。

デマンド交通では初期にシステムの導入費用、或いはオペレーターやシステムメンテナンス等のランニングコストに係る費用が発生します。一方、自治体の収入源となるべき利用料金が低額に設定されていることから、収支率が悪化し自治体の財政を徐々に圧迫しつつあります。その点 1,000 円タクシーは、従来の無線を活用していますので、これらの諸費用は一切発生しません。しかも、利用者が増えれば増えるほど市の支出は少なくなります。

このコロナ禍で自治体の財政はかなり疲弊したものと推測されます。持続可能な地域交通の確保の観点からみると 1,000 円タクシーは実態に即した制度といえるのではないのでしょうか。

そこで当協会と致しましては、まだデマンド交通を導入していない自治体があれば、積極的に 1,000 円タクシー制度の導入を推奨しているところです。既にデマンド交通を導入されている自治体におかれましても、ご検討される価値はあると存じます。

詳細につきましては、まず上記の動画をご覧ください。当協会のホームページにも当該リンクを貼っておりますので、そこからでもご覧になれます。

そして、ご関心を持たれた方は、（一社）茨城県ハイヤー・タクシー協会 服部までご連絡ください。ご相談に応じさせていただきます。

連絡先 029(297)7131(代表)

交通空白地域における一括定額運賃の導入（茨城県水戸市）



水戸市の中心部の公共交通は、鉄道やバス、タクシーがあり充実しているが、その周囲は交通空白地域となっており、この解消が水戸市において長年の課題のひとつであった。そこで、水戸市ではこの交通空白区域を11地区に分割し、9:00から16:00までの閑散時間帯に特化して、タクシーの市内片道1000円（地区内だけなら500円）による運行を導入した。実証実験を経て、令和3年4月から一括定額運賃の制度化の下で本格運行を開始している。

【運行状況】

- ・運行車両：市がタクシー会社から7台を借り上げる。
- ・運行時間帯：平日の9時～16時（閑散時間帯）。（一部地区では土曜運行も有）
- ・運賃：市内片道1000円（地区内だけなら500円）
- ・対象利用者：各交通空白地域の市民。通常のタクシーと同様に電話による予約となる。
- ・運行エリア：①国田・柳河地区、②大場地区、③妻里・山根地区、④上大野・下大野地区、⑤鯉淵地区、⑥酒門地区、⑦飯富地区の11地区
（R4.10.1より「1000円タクシー」から「水都（すいと）タクシー」の愛称に変更）
- ・運行形態：一般乗用旅客自動車運送事業（乗合ではない）

【運行委託】

- ・運行委託：市が協会の選定したタクシー事業者7社と契約する。
※事業主体は水戸市で、運行主体はタクシー事業者

【運行経費】

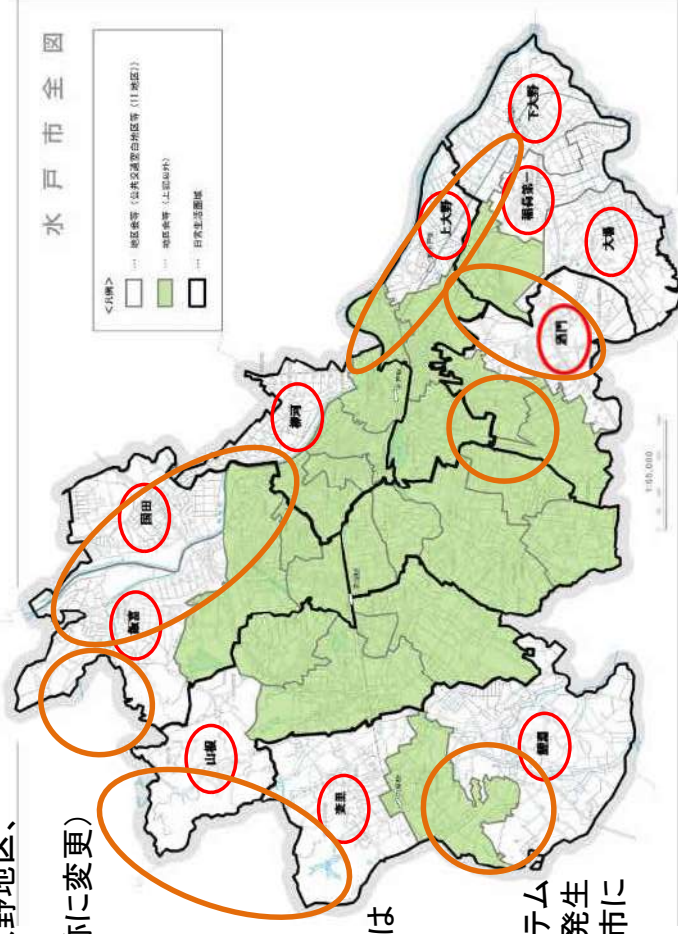
- ・市は1台につき1日24,360円で車両を貸切るも、利用者負担分（@1,000）については相殺している。（1日 回の運行があれば、市の支払いは14,360円で済む）

【効果等】

- ・タクシーに本来、備え付けである無線を利用することから、デマンドのようなシステム導入費用や、メンテナンス費用及びオペレーター人件費等のランニングコストは発生しない。さらには 利用者が増えれば増えるほど 市の支払は軽減されるため、市にとっては特に財政面で持続可能な公共交通を実現している。

地域公共交通におけるタクシーの役割では、デマンド交通とタクシー券による対応が主流であったが、新たな選択肢として一括定額運賃（1000円タクシー）が加わることから、各市町村の地域公共交通会議にて周知・検討をお願いしたい。

【参考】 <https://youtu.be/wer4jRp60Is>



照会先：水戸市市長公室交通政策課
電話 029-291-3804